

通学路 危険箇所どこだ

益城町 広安小児童らマップ作成

熊本地震で大きな被害を受けた益城町の広安小4年生120人が18日、通学路の危険箇所を点検するワークシヨップに取り組み、防災マップを作成した。

崇城大工学部の古賀元也准教授(43)の研究室が、防災教育に役立てようと初め

熊本地震

て企画。児童らは21のグループに分かれ、約1キロのコースを1時間以上かけて調査。危険箇所をタブレット端末で撮影した。

学校に戻り、拡大した地図に「地震が起きたら木が倒れてくるかもしれない」「道幅が狭い」などの注意書きや、災害時に避難できそうな空き地や防火水槽を書き込んだ。研究室が開発

危険箇所などを撮影したタブレット端末を参考に防災マップを作成する児童ら＝益城町

したアプリでデジタルマップも作った。
ひびが入ったブロック塀を見つけた宮本朝輝君(9)

は「いつも通っている道だけれど初めて気付いた。地震の時は用心したい」と話した。
(河北英之)